

令和3年度静岡市協働パイロット事業 企画提案書

団体名：NPO 法人開発教育 Funclub

1 事業のタイトル

しずおか自主夜間教室

- ・教育の機会を失った人たちのための学びなおし
- ・在留外国人との学びを通じた交流プラットフォームづくり

2 事業の概要 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください。)

しずおか自主夜間教室は、①不登校などで中学校を卒業しても、学力が身につけていないために、職を探すことができなかつたり、経済的に貧困状況に追い込まれたり、社会福祉のサポートを受ける方法がわからなかつたりする人々、②戦後の混乱期で学校に行くことができなかつたりした人々、③残留日本人孤児として帰国した人々、就労等で日本に来たが、日本語を十分理解できず、社会参画ができない人々などのために、夜間、教室を開催し、基礎的な学習や日本語を学ぶ機会を提供し、社会参画する力をつけるプラットフォームをつくることを目的とする。

①については、静岡県内だけで6000人を超える不登校児童生徒がおり、すでに卒業した人たち(形式卒業者)を加えると、膨大な数に上ると思われる。②については統計すらないが、日常生活の中で、字が書けない人、読めない人と接触した話を聞くことがある。③については7000人近い外国人が市内で生活していることがわかっている。

しずおか自主夜間教室は、9月から葵生涯学習センターを中心に月一回の学習の場を提供している。3月末現在、6名のフィリピンの方と4名の引きこもり、不登校経験者が通っている。そのうち、引きこもり、不登校経験者は、学習支援と進路指導を重ね、3名は4月から定時制高校に、1名は大学に進学することが決まった。教室を開いてみてわかったことだが、彼らは、ただ勉強を教えてあげれば、社会参画できるかという点、全くそうではない。引きこもっている状況からどう脱するか、カウンセリング、定時制高校など社会に参画できる力をつけるための進路指導、崩れそうな家庭の状況をサポートするために保護者との面談など、一人一人に応じたケアをしてあげる人、頼れる人がいないことが問題なのである。

一方、残留外国人の場合は、会話ができる人たちは比較的いるが、読み書きができない人が多い。なので、学校からもらったプリントや国勢調査、様々な給付金の申請など、日本人の手助けがなければ、生活をサポートしてくれる制度にもアクセスできないのが現状である。日本語学習を進める中で、職場のセクハラ、パワハラの相談も出てくる。彼らの生活上の課題を、地域の日本人が知ってあげて、「こういった方法があるよ。」「こういう制度があるよ。」ということを相談にのってあげることが大切なのは、彼らには頼れる日本人が少ない。お互いに知らないことが、日本人と在留外国人との共生のチャンスを奪っている。

しずおか自主夜間教室は学びを通じて、社会的弱者に丁寧に寄り添うプラットフォームである。学習だけでなく、その人の相談できる「友達」として、その人の生活を丸ごと理解してあげるのである。運営委員会では、そんな話も出てくる。そこから本当の意味の共生社会ができると信じている。

3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

<私たちが担う役割>

学びなおそうと思っている人たちの学習ニーズはさまざまである。在留外国人の人たちは、職場で使える日本語を学びたいと思うであろうし、進学を考えている人たちは、試験対応の学習を願う。学びは多様である。ある人は中学に行けなかったので、理科、社会、数学など、学習全般を学ぼうと思っている人もいるし、源氏物語を読んでみたい、日本の文化を知りたいなど、様々なニーズが考えられる。中には障害をもつ人も来るかもしれない。

①私たちは、学習者と面談をしながら、自分もいっしょに学ぶつもりで、その人の学びのニーズに合った勉強を考えていきたい。中には、自分たちでは教えられないこともあるかもしれない。たとえば、視覚障害の人が来た場合には、点字の知識が必要になるだろう。基本、来る人は拒まずだが、対応できそうなボランティアを募ることも大切な仕事である。

学習者は様々な生活上のハンディキャップを背負って、教室にやってくる。字がわからないので、履歴書が書けない。就学支援金を申し込みたいがどこに行ったらよいかわからない。中にはコピーをどうやってとったらよいかかわからないといった生活するうえでのハンディキャップを背負っている。

②学習者の生活に寄り添うことは私たちの大きな仕事の一つと考える。

学習者は人とのつながりが薄い。人と関わることの楽しさを味わってこなかった人が多い。

③学習者同士のコミュニケーションを大切にし、関わる楽しさの場を提供すること。これは、私たちの大きな仕事である。私たちは教室の2時限目をコミュニティー学習と位置付けている。ここでは、仮想協働社会を実現していきたいと考えている。国籍も、障がいも、学歴も、過去の傷も忘れ、楽しく学び合う時間と場を保障したい。

<静岡市に担ってほしい役割>

現在、チラシをハローワークや、福祉関係の運営委員が関係者に配っている。しかし、もう一度学びなおそうと思っている人になかなかアウトリーチできないのが現状である。そこで、引きこもりや外国人など、

①社会参画がしづらい人たちにしずおか自主夜間教室の周知をお願いしたい。

しずおか自主夜間教室が行っている社会的弱者に対するアプローチは、本来行政が担うべきものである。しかし、行政は行政として、できるサービスとそうでないものがある。しかし、私たちと同じミッションをもつ。そこで、

②お互いに情報交換、相互理解の機会をもち、話し合う中から、お互い協働できる活動を模索したい。

協働パイロット事業は、委託年限が過ぎると、解消されてしまうことが多い。しかし、それでは行政と市民団体との協働の在り方としてはよろしくない。まちづくりの分野や高齢者の社会参画推進の分野などで、市民団体と行政が協働し、継続して、市民サービスを行っている事例は多くある。お互いに自分たちのもっている長所短所をともに共有しながら、ミッションを確認し、市民サービスに努めている。

③単年度ではなく、継続した協力関係を委託機関の間に構築していきたい。

4 事業計画・実施スケジュール ◎協働パイロット事業関連

- 2021 4月～12月 ○ しずおか自主夜間教室 生徒募集（チラシ配布） 以下候補
- ・福祉関係組織（社会福祉協議会・児童相談所・生活支援センター・地域包括支援センター・市民団体など）、ハローワーク、エスニックレストラン、生涯学習センターなど
 - 年間計画づくり
 - 予算書づくり・教材購入
 - 支援金等、経済的な資金確保
 - 開発教育 Funclub 定款等変更
 - ボランティア・運営委員の追加
- 定例運営委員会
(毎月第一水曜日)
- ◎ 市役所担当課との打ち合わせ開始
- ・お互いの活動についての理解
 - ・協働できそうな内容についての確認（既成の事業に相乗りするなど、新規に事業を起こすということは考えない。）
 - ・お互いの担当者を決める
 - ・しずおか自主夜間教室の見学
 - ・担当課の活動を見学
- 担当課との協働関係づくり
協働事業の模索・計画・実施
- ボランティア研修の実施
 - サテライト教室構想を進める
 - アースカレッジ 2022 への参加計画
- 2022 1月～3月 ◎ 担当課との共同事業の継続実施・評価
- ・見えてきた協働できる活動について、具体案をつくる
 - 本年度の総括
 - 次年度の予算・活動計画づくり
- 2022 4月～ ◎ 協働パイロット事業の定着へ
- ◎ 教育委員会へのアプローチの可能性模索
 - 本年度の計画・予算承認
 - しずおか自主夜間教室の運営の定着化

5 実施体制及び主要スタッフの経歴

肥田 進	元静岡市立西奈小学校校長 焼津市外国籍児童生徒支援員 NPO 法人開発教育 Funclub 理事長
深山 孝	静岡市立富士見小学校教頭 NPO 法人開発教育 Funclub
小長谷 浩児	静岡カルチャーセンター NPO 法人開発教育 Funclub
高畑 幸	静岡県立大学教授
三嶽 順也	社会福祉法人天心会
福貴 稔	社会福祉法人天心会
浅井 夏美	NPO ぱく
杉山 敏子	静岡市日本語教育指導員 市国際交流協会日本語ボランティア
角替 弘規	静岡県立大学教授
安藤 実希	常葉大学
池田 優菜	静岡県立大学
森 あずさ	静岡福祉大学
長谷川 吏緒	静岡福祉大学
市川 成章	静岡市立大里西小学校教諭
渡辺 尚子	眞内科居宅支援事業所
栗田 よしみ	静岡市地域若者サポートステーション

6 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など）

在留外国人に、日本語を教えるグループは多くある。私たちは、日本語を教えるのみならず、日常の暮らしの中で、在留外国人が感じている困難や生活上の課題に寄り添うことで、私たちの社会の一員として、在留外国人を考え、共生社会をつくっていかうと考えている。

また、不登校児童生徒や貧困家庭の学習支援、生活支援を行うグループは、子ども食堂を始め、数多くある。しかし、義務教育を卒業した人たちに対する支援はなかなか行われていない。学校に在籍していないので、把握できないからである。私たちは、学校や社会がなかなか把握できない社会参画できない人たちにもコミットする。その中で、進路指導、社会福祉制度へのアクセスなどの支援をも行っている。

このように、学習者を学びだけでなく、生活を含め、学習者の生活上の困難に丸ごと寄り添うのが私たちの特徴である。実際には、定時制高校を受験予定の学習者に、受験指導、面接指導、願書提出の手伝い、修学支援金の申請手続きへのサポート、学校に通うための自転車の提供など、ありとあらゆるサポートをする。それは、学習者の経済状態や家庭の状況を知っているからであり、時には保護者を含めて話をすることもある。

静岡県では公立の夜間中学校を2023年度から開設する予定である。全国には公立の夜間中学校が35校あるが、静岡県にはまだない。また、全国にはいくつかの市民による自主夜間中学校が存在するが、静岡県で自主夜間中学（自主夜間教室という名前だが）を開設しているのは、しずおか自主夜間教室だけである。私たちは、2020年の9月から、すでに夜間教室を始めており、自分たちの活動がすでに、学びの指導だけではないことがわかってきた。

また、不登校児童生徒や在留外国人が増える一方で、行政による支援は遅々として進んでいないのが現状である。それは、行政的な支援は、困窮者がアクセスして初めて支援が開始されるので、アクセスすることを本人がしない限り、問題は何も解決しないからである。情報も届かないので、そういう制度の存在すら知らない。

夜間中学校が、教育機会均等法の施行依頼、注目をされ始めているのは、こういった義務教育から疎外されてきた人々、日本社会に適応していない在留外国人が、社会には、相当数存在しており、今までのような、「サービスがあるのに、あなたがアクセスしてこないから悪い。」という待ちの行政の姿勢では、彼らを救うことがもはやできないからである。夜間中学校は、新たな多様な学習者のニーズにこたえられる機関であるので、今注目されているのである。

私たちは学習者の生活を、学びを通じて、丸ごと相談にのっていく過程をとるので、彼らのニーズに、きめ細かく対応できるのみならず、運営委員には教育者のみならず、福祉関係者もいるので、福祉面でのサポートもできる。事例によっては、必要な機関と連絡を取り、リファーすることもある。

また、公立夜間中学には毎日通わなければならないが、それは無理。外国人でも母国で義務教育を受けている人は入れないという人たちにも、しずおか自主夜間教室は、柔軟に対応することができるのである。